

第一日曜日
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～
その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2020 (令和2年) 8. 9

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈祷会
第2日曜日 礼拝後
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「救いを賜る主の戦い」

牧師 松谷 祐二

サムエル記上 第十七章四一～五〇節

ペリシテ人は、盾持ちを先に立て、ダビデに近づいて来た。彼は見渡し、ダビデを認め、ダビデが血色の良い、姿の美しい少年だったので、侮った。このペリシテ人はダビデに言った。「わたしは犬か。杖を持って向かって来るのか。」そして、自分の神々によってダビデを呪い、更にダビデにこう言った。「さあ、来い。お前の肉を空の鳥や野の獣にくれてやろう。」だが、ダビデもこのペリシテ人に言った。「お前は剣や槍や投げ槍でわたしに向かって来るが、わたしはお前が挑戦したイスラエルの戦列の神、万軍の主の名によってお前に立ち向かう。今日、主はお前をわたしの手に引き渡される。わたしは、お前を討ち、お前の首をはね、今日、ペリシテ軍のしかばねを空の鳥と地の獣に与えよう。全地はイスラエルに神がいますことを認めるだろう。主は救いを賜るのに剣や槍を必要とはされないことを、ここに集まったすべての者は知るだろう。この戦いは主のものだ。主はお前たちを我々の手に渡される。」

ペリシテ人は身構え、ダビデに近づいて来た。ダビデも急ぎ、ペリシテ人に立ち向かうため戦いの場に走った。ダビデは袋に手を入れて小石を取り出すと、石投げ紐を使って飛ばし、ペリシテ人の額を撃った。石はペリシテ人の額に食い込み、彼はうつ伏せに倒れた。ダビデは石投げ紐と石一つでこのペリシテ人に勝ち、彼を撃ち殺した。ダビデの手には剣もなかった。(新共同訳聖書)

イスラエルの人々は、他の国と同じように強力な王を立てることを求めました。「見えざる神がわたしたちの王だ」と信じる信仰はどうに忘れてしまっていたか、忘れてはいないまでも、目の前の危機に対する不安のほうがまさったのでしょ

う。神は彼らの要求をあえて受け入れ、イスラエルに最初の王、サウルをお立てになりました。

ついでながら、王や祭司、預言者の任職の際には、その頭に香油を注ぐ儀式が行われました。神からの特別の使命と、それを果たすための力を受けることを象徴するものです。このように神から選ばれて使命を担う者に「油注がれた者(ヘブライ語でマシーアハ↓「メシア」)という称号がつけられるようになります。「メシア」をギリシャ語に訳した言葉がクリストス、「キリスト」です。たとえ、人々の不信仰をきっかけとして選ばれた王だとしても、神は「油注がれた者」を助け導こうとされます。サウルが神の言葉に聞き従いさえすれば、神は彼の王権を確かなものにしてくださるはずでした。しかし、初めは謙虚であったサウルも、次第に神の声より人の声に耳を傾け、自分の欲に従うようになってしまいました。神はサウルを王位から退けることを決意され、羊飼いの少年ダビデを選び、預言者サムエルに命じて油を注がせられました。もともと、その油注ぎは公の場で行われたものではなかったため、世間的にはまだサウルがイスラエルの王でした。

さて、士師時代からの敵であるペリシテの軍勢が、イスラエルに侵攻しました。ペリシテ人の戦士ゴリアトが進み出て一騎打ちを呼びかけますが、彼は背丈が三メートルほどもある巨人。サウルもイスラエルの兵たちも、恐れおののくばかり。そこに、私が戦います、と無名の少年ダビデが志願したのです。

冒頭の聖書の箇所は、そのペリシテ人(ゴリアト)と少年ダビデの戦いの場面です。巨大な青銅の投げ槍を手に迫るゴリアトに対して、ダビデが武器としたのは、羊飼いの使う石投げ紐と小石でした。サウルもイスラエルの兵たちも皆、太刀打ちできないと恐れていた敵を、ダビデは投石一つで撃ち倒したのです。ペリシテ軍は恐れて逃げ出しました。この勝利は、ダビデがサウルの家臣として召し抱えられるきっかけになったと見られます。

しかし、この場面で注目すべき本質的なことは、小さい者が大きい者に勝ったことでも、そのために立てた戦略の巧みさでもありません。ダビデが、この戦いの主役を誰と考えていたか、です。「主は救いを賜るのに剣や槍を必要とはされないことを、ここに集まったすべての者は知るだろう。この戦いは主のものだ。主はお前たちを我々の手に渡される。」

主が、神ご自身が、我々を救うために本気で戦われる。これはわたしの戦いではなく、わたしを器として用いて戦いたもう、主の戦いだ。——これがダビデの確信でした。ここが重要なのです。サウル王もイスラエルの民も、この信仰を失っていました。かつて、「王を立ててほしい」と人々が要求したときに言った言葉を、ダビデの言葉と対照するとよく分かります。

民はサムエルの声に聞き従おうとせず、言い張った。「いいえ。我々にはどうしても王が必要なのです。我々もまた、他のすべての国民と同じようになり、王が裁きを行い、王が陣頭に立って進み、我々の戦いをたたかうのです。」(サムエル記上 第八章一九～二〇節)

ダビデから約一千年の後、神は今一度、大きな戦いを戦われました。イスラエルの人々のみならず、全世界の人々に、わたしたちに、救いを賜るための、本気の戦いです。その戦いでも神は、剣や投げ槍を必要とはされませんでした。石投げ紐と小石さえも、お使いになりませんでした。

その戦いで、かつてのダビデの位置について、神の器として戦っていたのは、神の子、イエス・キリスト。ゴルゴタの丘がその戦場。敵は、神からわたしたちを容赦なく引き離そうとする、罪と死の力、サタン。神が、わたしたちに救いを賜るために必要とされたのは、あのイエス・キリストの十字架一つ、わたしたちの罪の代償として死なれた、罪なき御子の死。これこそ、まさに主の戦い、主の勝利でした。

神に委ねることを覚えて

ヤング肇子(けいこ)

今年三月末に岡山(倉敷市)から上京し、夜暗くなってから東京神学大学の寮へ到着しました。

暗い中、ひとりで桜の木と校舎の間を重い荷物を引きずって歩きながら、これからの数年間は神さまにお委ねすることを祈りました。

私は去年まで母の介護をしながら、日本基督教団の補教師試験Cコースを受験していました。Cコースでの独学はなかなか大変な状況でしたが、母のこともあり、学校へ行くことはあきらめていました。しかし、神さまがなさることは不思議としか思えません。母のことは妹が引き受けてくれる状況となり、時期的にも東京神学大学に願書を受け付けてもらえることが出来ました。

これからの神学の学びに気を引き締めてやる気満々で入学いたしました。新型コロナウイルスにより授業開始も大幅に遅れ、やっと五月後半にスタートしました。寮生は教室で受講でき、遠くの生徒はオンラインでのスタートとなりました。入学式もなく入学写真もなく、教員職員の方々も異例のことで本当にご苦労がありました。と思います。

私が東京神学大学を受験する際、推薦状を書いてくださった私の所属していた倉敷

市の玉島教会の牧師は、私の合格発表を待たずして肺の病気(コロナではありません)で入院後十日間ほどして亡くなりました。今現在も玉島教会は無牧のままです。

教会が一番大変な時に兄弟姉妹によって送り出して頂き、後髪を引かれる想いでいしましたが、後のことは神さまの御心にお任せし、また亡くなられた牧師が私を牧師に育てることを目標に玉島教会へ赴任して下さったことを奥様からのちにお聞きし、未だに残念な気持ちでいます。

学校から早い時期に麻布南部坂教会を紹介して頂いていましたが、新型コロナウイルスの関係で礼拝に行くことが出来ず、やっと六月からの礼拝開始を待つて参加することが出来ました。

松谷先生にはお氣を使って頂き、「様子を見ながら来て頂いたら良いですよ。」と言って頂きました。

初めての麻布南部坂教会はとても柔らかくなクリスチャン家族を想わされ、先生とも兄弟姉妹とも和やかに過ごすことが出来ました。宍戸信次郎さんや真理さん、教会学校の担当の方々に親切に教えて頂き、随分前から知り合っていたような感じを覚えました。

今、三年次編入生ですが、私の場合は大学院を出るまで五年ほどかかると思いますが、とにかく頑張って仕えたいと思っています。

どうぞ、末永く共に教会生活を満喫させてください。

報告

*書面による二〇二〇年度臨時総会の結果、総会資料三ページの日付の誤り(「神

学校日・伝道献身者奨励日、高橋優美子神学生」誤・十月十三日 正・十一月十日)についての指摘がありました以外は、意見・質問はありませんでした。よって、報告事項(一)二〇一九年度伝道報告に関する件は承認されました。

*新型コロナウイルス対策への対策として、以下の点にご留意ください。

- ・礼拝参加者は受付での手指消毒、マスクの着用をお願いします。ただし、マスクは適宜外して調整してください。
- ・構いません。
- ・前後左右に一人分ほどの間隔をあけてお座りください。
- ・各自、飲料をご持参されることをお勧めします。礼拝中も適宜、水分補給をしてください。

- ・教会学校教師会、成人会、婦人会の開催及び食事については、それぞれの会の判断にお任せします。
- ・感染者数の増加が報じられています。出席に不安を感じる方はくれぐれも無理をせず、ご自宅等で礼拝をお守りください。
- *聖霊の恵みへの感謝を込めて、「ペンテコステ献金」(目標額二十五万円)をお捧げください。

成人会

日時 七月十九日 十三時~十四時半
場所 教会堂会議室
出席者 四名
開会祈祷 佐藤忠昭兄
内容

今月から「出エジプト記」を学ぶ。モーセの生い立ち、育成の過程、そして、主からの召命と続くが、次の点について牧師の解説を受け、意見を交わした。

- ・敵の王女が助け、育てること、への疑問はないのか。
 - ・神が「わたしはある。わたしはあるという者だ」とは具体的には何か。
 - ・神がモーセを殺そうとしたこと、「血の花婿」とは、「過越し」とのつながり。
- 次回 出エジプト記第六章二節から
黙祷で終了

婦人会

休会

